



## これからの“つながり”と“学び” ～ときわ会西蒲・燕支部未来図「一灯照隅」～

支部長 鈴木 華奈子 (63年度・燕東小)

11年前、ときわ会140周年の際、全ての年度・支部で「未来図」を作成した。当時、各年度・支部で、これまで自分たちが何を大切にしてきたのか、これから目指す姿について繰り返し話し合い、練り上げ、それを言葉と絵で表現したのが未来図である。

西蒲・燕支部の未来図には、柔らかな筆致で「一灯照隅」とある。これは、「まずは自分の目の前の一人を笑顔にしよう。そして、同じように人をそっと照らす仲間を増やし、共により多くの人を笑顔にしよう。」と、見るものに語りかけているように思える。

昨年度、150周年事業の一環として、「真価を問う問い」に対するそれぞれの考えを語り合う機会が設けられた。支部会員からは、「これまでときわ会で何を学び、何を得てきたか」の問いに対して、「新しいコンテンツなどの情報や実践に触れ、常に刺激を得ることができた」「指導・支援の全ては児童理解が基であ

るといふ深い学び」など、仲間や先輩と出会い、つながることで得た様々な学びに関する回答が多く見られた。

11年前とは異なり、IT技術・経済・環境・社会情勢等あらゆるものが激しく変化する今こそ、支部会員がときわ会の価値として挙げた、多様な出会い・つながりから得られる新たな情報と刺激 及び、時代によらず変わらぬ教育の視点や価値観は、より重要になる。

「一灯照隅」に示されたとおり、子どもを真ん中において、未来に向け、歩み続ける会員を、先輩・同期・後輩のつながりの中で支え合い伸ばし合えるのが西蒲燕支部である。今年度は、主体性と柔軟性を活かすマニアック研修、近隣校ときわや各種研修等での対面機会の設定による知り合い・学び合い・伸び合える場の充実に取り組む。これらにより、一層、会員一人一人の教員としての生き方と輝きを支える西蒲・燕支部となることを目指していく。